

被災地で活動したボランティアの声

- ボランティアというのは**相手と自分の両方に得るもの**があって初めて**ボランティア**というのだと思いました。(平成7年阪神・淡路大震災)
- ボランティアに参加して、**人の絆、優しさがどれほど大切なもの**か改めて強く感じました。それと同時にこんなにも優しい人がたくさんいるんだなと感動しました。(平成12年東京都三宅島噴火)
- 人に感謝されることがとてもうれしかったし、自分でも役に立てるんだと少し自信もつきました。「ありがとう」という言葉を何度か聞きましたが、私からも**「ありがとうございました」と言わせていただきたい**です。(平成12年秋雨前線豪雨と台風第14号による大雨(東海豪雨))
- 被災された方々のありがとうという言葉聞くたびに、あるいは他のボランティアの方々と力をあわせて何かできたとき、**参加して良かった**と強く思いました。(平成12年秋雨前線豪雨(東海豪雨))
- ボランティア活動は気恥ずかしいが、みんなで楽しくやれる**連帯感があること、人とのつながりができること**(輪が広がる)、いろいろ**学習できること**がいいと思います。(平成12年鳥取県西部地震)
- 地元でボランティア活動に取り組んでいた人たちも大きな支えでした。地元だからこそ人の顔が分かるし、被災された方々の警戒心も解ける。被災状況を把握するための地図づくりにも役だった。**外部の人たちだけでは態勢は整いません。地元の大きな力が必要**です。(平成14年宮城県北部を震源とする地震)



被災された方に救援物資を届けている様子
(山口県岩国市美川町)
写真提供: 美川町災害ボランティアセンター



被災された方に飲料水を届けている様子
(広島県呉市)

写真提供: 呉市社会福祉協議会

- ボランティアに参加して、人の温かさに接し、また損得ぬき、金銭ぬきで**ほんの少しだけでも人の役に立てたという想い**は、翌日から私自身の生きる力となりました。南郷のみなさんからパワーをもらうこととなりありがとうございました。(平成14年宮城県北部を震源とする地震)
- 一人ではできないことを**たくさんの人たちが協力し、手をとりあうこと**によって、こんなにも人の笑顔を見ることができるのだと感じました。(平成16年7月新潟・福島豪雨/三条市)
- 最初の頃あまり笑顔や元気がなかった方が、回を重ねていくうちに**少しずつ笑顔がでてきて**うれしく感じました。(平成19年能登半島地震)

出典: 各災害ボランティア